

1級土木実地合格発表 合格率20.8% (2ポイントアップ)

ー記述テーマ細分化緩むも、合格率は伸びず/学科と実地のレベル差より明確にー

23年度・1級土木実地合格発表コメント

- 記述テーマが「安全管理」と旧来のテーマ設定に戻ったことから、合格率の上昇を期待したが、昨年の18.5%からの微増（ほぼ変わらず）に終わった。
- 選択問題は実際の施工に関わる出題傾向がより強くみられたが、正解率は低い。また、施工計画分野でのコンクリート打設順序の出題は、携わる業種により不公平を生む傾向と考える。（23年の出題をみると、選択問題3はコンクリートに特化した分野、問題4の品質管理でさらにコンクリートの出題、そして上記の施工計画分野でさらに出題ーーという出題バランスが、幅広い業種の受験資格を認めている本検定で果たして適当であるか、という観点からの指摘である。ちなみに2級では土木、鋼構造物、薬液注入の3種別に受験種別を区分して検定しているが1級ではその区分はない。）
- 選択問題では過去問の出題は減少してしているが、それでも各問題の50%程度は過去問（学科からの傾向を含めて）とあってよく、基本はやはり、過去問題の徹底理解である。そしてその上に、その年を含めた数年の学科・実地の出題内容をよく分析して、その延長線上の傾向を読みとり、先手を打った一段深度を深めた勉強をしておく必要がある
- 23年問題文で特筆すべき事項として、22年問題に引き続き、「問題1」施工経験記述問題及び全体の採点基準の一端を次の通り明記していることである。

<試験問題用紙冒頭>

問題1で

- ①設問1の解答が無記載又は記入漏れがある場合、
 - ②設問2の解答が無記載又は設問で求められている内容以外の記述の場合、
- 問題2以降は採点の対象となりません。**

(当社解答速報欄参照)

23年 出題 区分 (参考)

問題1 施工経験記述問題 (必須)

問題2 土工、
問題3 コンクリート工、
問題4 品質管理
問題5 安全管理、
問題6 施工計画・環境対策

3問題選択

<上記についてのコメント>

この意味するところは、つまり問題1の施工経験記述内容に上記の不備がある場合は即不合格判定となるということです。」

また、記述問題に不備があると問題2以降の選択問題がたとえ満点の内容でも（記載不備の場合、もう採点しませんから）全く考慮されない—ということです。

（ここで誤解しないでもらいたいのですが、問題1をクリアした受験者は問題2以降の選択問題が採点対象となり、一定の正解率（当社では60%とみています）を満たすことにより合格判定となりますから、選択問題の重要度が変わるものではありません。）

この基準については23年度から導入したのではなく、22年問題において初めて明記したもので、当社がかねてから指摘している内容で目新しいものではありません。ただ、このように明言したのは昨年問題が初めてです。では何故、わざわざこの期に及んで発表したかですが、経験記述の内容がどの程度合格基準に関わるかについて、問い合わせも増え、様々な憶測が飛び交っている状況を考慮し、基準を明確に周知することが好ましい、と判断したのではと受け止めています。あるいは、勝手な想像ですが、しばらく続いていた、記述テーマの細分化の傾向を、従前のテーマ設定に戻したが、評価基準は以前より厳しくしていきますよ、というアナウンスメントの意味もあるのかもしれませんが。（蛇足：記述テーマは土木受験資格で定める幅広い工種（幅広い工種の受験者に）に不公平とならない様に定める必要があるが、実際に設定された細分化傾向テーマは、かなり偏りが生じていると危惧しているところです。）

いずれにしても施工経験記述の問題1は、益々重要度を高めていく気配ですので、十分対策を練っておく必要があります。キーワードは、論旨の明確さです。裏返して言えば、論旨がより明確になる様な文章形式を採用する—ということです。与えられた条件を明確に漏れなく、解りやすく文章表現するための、それなりの文章形式を確立しておくことが必要です。

1級実地試験合格率の推移

年度	23年	22年	21年	20年	19年	18年	17年	16年
%	20.8	18.5	19.5	25.9	36.7	30.7	56.2	66.4

教務部